

### 経過

- ① 感染から約 5 日間（1～14 日間）の潜伏期を経て
- ② 感冒症状（発熱，咳，喀痰，咽頭痛，鼻汁等）と倦怠感
- ③ 一部の患者では嘔吐，下痢などの消化器症状や臭覚、味覚の消失

その症状が比較的長く、約 7 日間持続して、体温がそれほど高くないのに倦怠感が強い。普通感冒やインフルエンザでは発症から 3～4 日目までをピークに改善傾向に転じますが、武漢コロナウイルスはその症状が 7 日間前後続いた後に、次のような経過をたどります。

- ④ 約 8 割の患者は、自然に軽快して治癒する
- ⑤ 約 2 割の患者は、肺炎を合併する。特に、高齢者や基礎疾患がある場合は肺炎を合併しやすい
- ⑥ 肺炎に進展した患者のさらに一部が、重症化して集中治療や人工呼吸を要する

普通感冒やインフルエンザは、肺炎等の入院を要する状態に至ることは比較的稀ですが、入院を要するような肺炎を約 2 割という高い確率で合併するのが、武漢コロナウイルスの特徴です。ただし、武漢コロナウイルスの場合は、発症 7 日以内の早いタイミングで肺炎に至ることもあるため、慎重に経過を追うことが必要です。特に、高齢者や基礎疾患を有する患者又は妊娠中の女性では、発症直後に肺炎に至ることもあるため要注意です。

また、武漢コロナウイルスに合併した肺炎では、強い湿性咳嗽、息苦しさ、呼吸困難、軽微な乾性咳嗽などの多彩な臨床像を呈します。

高齢者及び免疫低下につながる基礎疾患がある患者が武漢コロナウイルスに罹患した場合は、肺炎を合併しやすく、また重症化しやすい傾向があります。

高齢及び基礎疾患がある場合の致命率は、健康成人に比べて、大きく異なります。

高齢者（80 歳以上） 14.8%、循環器疾患 10.5%、糖尿病 7.3%、慢性呼吸器疾患 6.3%、高血圧 6.0%、悪性腫瘍 5.6% と健康成人より危険性が増加します。

従って、高齢者や基礎疾患（糖尿病，心不全，腎障害，人工透析，生物学的製剤投与，化学療法及び免疫抑制剤投与等）を有する患者では、感冒様症状を呈した場合は慎重に経過観察する必要があります。その上で症状悪化時には速やかに高次医療につなげて、死亡を回避することが重要になります。

その一方で、小児では重症化は稀であり、小児における武漢コロナウイルス感染症は、ほとんどが普通感冒と同様の経過のみで治癒すると考えられます。

武漢コロナウイルスの発症初期は感冒様症状のみなので、他の疾患との鑑別が極めて困難なため、早期受診のメリットはありません。逆に、安易に早期受診することで待合室等で感染が拡大するおそれがあり、症状があるにもかかわらず無理をして出勤、登校その他外出した場合には外出先で感染拡大する恐れもあります。従って、感冒様症状の患者には発症初期には自宅療養を促して、早期の受診を避けて、不用意な出勤等の外出を避けてもらうことが大切です。

この病気に限っては、早期診断、早期治療の理論は通用しません。

患者の希望によって PCR の検査を受けることはできません。

上記のような症状が続いたら、直接病院に行くのではなく、罹りつけの医師に電話をして、その指示に従ってください。PCR 検査の必要があれば、その設備のある医療機関を紹介してくれます。

武漢コロナウイルス等の感染症の診療は、安全範囲と汚染範囲とを区分けした診察室で、N95 マス

ク、フェース・ガード、防護服をつけた医師しかできないのです。サージカル・マスクしか持っていない、一般の開業医では、医師の感染の可能性が高いので、診療することは不可能です。

---

## 治療

### ワクチン

ウイルス性の感染症を終息させるためには、ワクチンの投与が欠かせません。ワクチンを投与するまでには次の過程が必要になります。

- ① ワクチンの開発
- ② 安全性の評価・・・6ヶ月
- ③ 有効性の評価・・・6ヶ月
- ④ ワクチンの製造・・・3ヶ月
- ⑤ ワクチンの配布と接種・・・3ヶ月

更に、免疫効果が出るまでに2週間かかります。現在、すでに安全性の評価に入っていますが、接種して効果が出るまでには、最速で1年後になるわけです。

ワクチン開発の現況は次の通りです。

mRNA-1273・・・アメリカ 安全性と免疫原性を評価中。

INO-4800・・・アメリカ 秋に評価終了。

BNT162・・・アメリカ、独 4月に臨床試験開始。年内に供与可能と発表。

アンジェス、田辺三菱 日本 8月に臨床試験開始。

### 治療薬

レムデシベル・・・抗ウイルス薬・アメリカ

アビガン・・・抗インフルエンザ薬・富士フィルム、富山化学

オルバスコ・・・気管支喘息・帝人ファーマ

カレトラ・・・HIV 治療薬、アメリカ

アクテムラ・・・オーバー・サイトカイン抑制剤・スイス

クロロキン・・・抗マラリア薬・フランス

TAK-888・・・高度免疫グロブリン製剤・武田薬品

フサン・・・肺炎治療薬・日医工 等々、数多くの医薬品が、臨床試験を開始しています。しかし、現時点では、すべて安全性と効果の治験段階であって、インフルエンザにおけるタミフルのような特効薬は開発されていません。

### 処置

肺炎が重症化した場合、ICUにおける酸素吸入、人工呼吸器、人工心肺が必要になります。ベッドを始め、殆どの医療機器を中国に頼っていた、日本や欧米にとって、今後、サプライ・チェーンのように構築するのかが問われています。安倍首相も武漢コロナウイルスを機会に、サプライ・チェーンを国内で終結する決断をしたので、中小・零細企業の経営者が多い、ロータリアンの意識改革が迫られてくるものと思われます。

絶対的に不足していたCPRの検査機器や超小型のECMO等が、続々と開発されている模様です。

なお、回復期の患者の血漿を投与する方法や、血液を取り出して、赤血球に強制的に酸素を与えて戻す等の治療法が試みられ、効果を上げている模様です。

---

## 予後

人と人との接触を完全に絶って約半年、ワクチンが開発されて約1年～1年半で終息するものと考えられますが、一旦終息したと思われる地区や国で、再感染する例が数多く見られます。

PCR検査が鼻の粘膜を介して行われる関係上、肺の深部や他の臓器に潜んでいるウイルスが発見できなったり、ウイルスが変異を繰り返して強いものに変化するために再感染する等が考えられます。

変異を繰り返すため、ワクチンが開発されても、インフルエンザと同様に、毎年、接種する必要があるかも知れませんし、エイズやC型肝炎のように、一旦体内に入ったら、一生駆逐できないようなウイルスかもしれません。